

森林・農業班 C

黒タイ村落における自然利用と染織物生産
榎永真佐夫 (国立民族学博物館)

キーワード：黒タイ (タイ・ダム)、社会経済、染織物生産
調査 (予定地)：ラオス、フアパン県ムアン・エット

The utilization of natural resources and the textile production in the Tai Dam village
Kashinaga Masao (National Museum of Ethnology)

Keywords: Tai Dam, social economy, textile production
Research site (planning): Muang Et of Hua Pan prefecture in Laos

1. 研究の目的・内容・方法

これまで、ベトナム・ライチャウ省の黒タイ村落を中心に、市場経済化の中の伝統的な物質文化継承の現状と村落の社会経済の関わりについて、とくに染め織物生産に焦点を当てて考察してきた。このプロジェクトにおける研究もそれと連続性を持つ。{研究の目的は、黒タイ村落における染め織物という物質文化の生産に焦点をあて、地域の社会経済史と生態史にアプローチすることである。

調査は 20 世紀初頭まで、ムアン・ムアツ (現ベトナム・ソンラー省マイソン県) という黒タイ・ムアンに属していたムアン・エットで行う。この地域を選ぶ理由は、これまで調査してきたライチャウ省の黒タイと、物質的状况および言語的状况が近く、インタビューなどが容易であることとベトナム側との比較が容易であると予想されるからである。

2004 年度は、9 月頃にムアン・エットにおける、比較的早く、戸数も平均的な黒タイ村落の選定を主目的としたサーベイ調査を行い、12 月頃に選定した村を再度訪問し、調査を実施する予定である。

まず、盆地 (tong)、田 (na)、畑 (hai)、森 (pa, dong)、村 (ban) などの空間認識と村落民の生産活動の結びつきについて明らかにする。とくに local term、および、利用や管理を含めたそれぞれの空間への関わり方について整理する。

その上で、染め織物生産が、どの空間のどのような生産活動と結びついているか、共時的かつ通時的に考察する。さらに、染め織物生産と村落・親族・ジェンダーなどの社会関係がどのように導入されているか、また市場や村落外 (異民族を含む) との経済的・政治的・社会的交流の様態について明らかにする。この場合、移住の状況、市場や政策、アイデンティティーの変化についても注意を払う。

最初は、村落のマッピングを作り、各世帯の経済的状况と日常生活のサイクルについて総体的に理解する⁷とから始めることになるであろう。その過程で、村の人々との信頼関係を築き、より細かい調査を実施することになるであろう。

2. 調査実施への準備状況

2004 年 3 月 25 日、バンコクで Sisomphone 氏 (ラオス情報文化省ラオス文化研究所) に会い、フアパン県における黒タイ村落調査の可能性について打診した。その後、3 月 30 日、ビエンチャンで Sourinnhet 氏 (ラオス情報文化省ラオス文化研究所) と会談し、森林・農業班の一員として調査を実施するための具体的な手続きの流れと、フアパン県における黒タイ村落調査実施の可能性を確認した。そこで、情報文化省ラオス文化研究所としては、黒タイ村落で 1 ヶ月以上の長期の住み込み調査に協力できる旨の回答を得た。